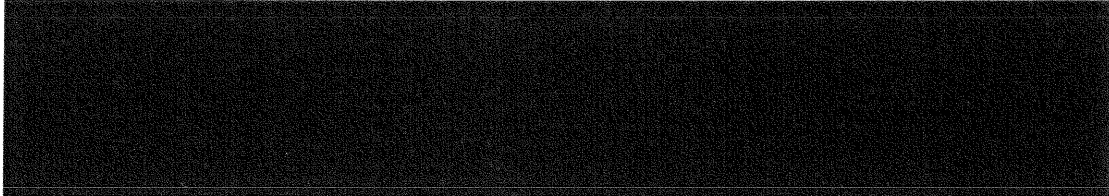


外電（9月23日）への応え

1. 海洋モニタリングデータ



答：

測定ポイントによっては、結果を即時に求められるものがあります。この場合は、検出限界値を大きく（＝精度が低下）して測定時間を短縮させます。検出限界を下げた値（＝測定時間を長くさせた値）は、時期のずれはありますが、以下のように公開しています。

2013年8月5日のデータとして

<http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/9000/8152/24/349-0920-s.pdf>

2013年7月のデータとして

[http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/9000/8046/24/349\\_1\\_0830\\_0909.pdf](http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/9000/8046/24/349_1_0830_0909.pdf)



答：

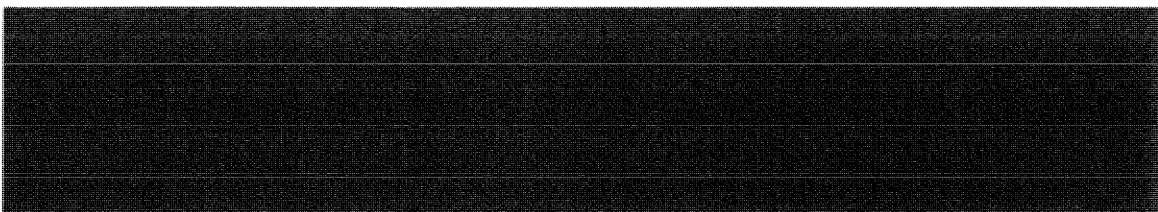
ご指摘の通り、T-D9 ポイントは ND ではありませんが、±の値を考慮すると他のポイントと比較して有意な差があるとは認められません。

参考までに、これらのポイントにおける 2013 年 6 月及び 5 月のデータは以下のように公開されています。

[http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/8000/7885/24/349\\_s\\_0724.pdf](http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/8000/7885/24/349_s_0724.pdf)

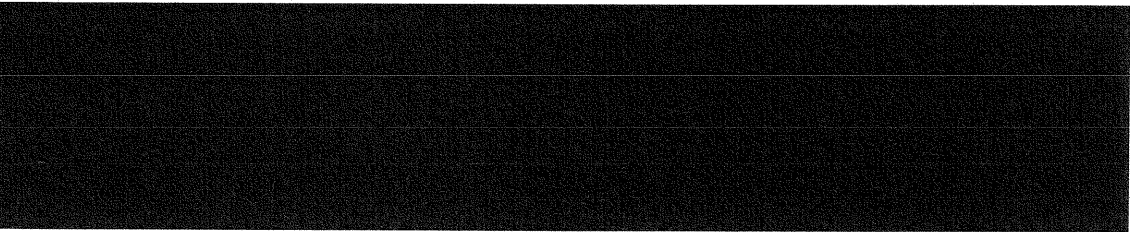
[http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/8000/7716/24/349\\_1\\_0614.pdf](http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/8000/7716/24/349_1_0614.pdf)

どれも十分に低い値であることを示しています。



答：

ご指摘の通り、他の値と比較すると高いように見受けられます。  
ただ、現在、これらの値は（特に原因がなくとも）±30%ぐらいの幅で変動すると考えておりますので、他の値と比較して有意に高いとは思えません。しかし、引き続き、注意深く監視していく必要があると考えております。



答：

ご指摘ありがとうございます。  
上記と同じ理由で変動を考えると、T-S5とT-11については、有意な差とは考えにくいのですが、T-S7は変動を考慮して、他のポイントより高い傾向は否定できません。いずれの3点も上記と同様、注意深く監視していく必要があると考えております。



答：

ご指摘ありがとうございます。  
ご指摘の通り、このポイントは比較的高い値が認められました。  
このポイントの測定は月1回のみであり、2013年6月と5月のデータは以下のように公開されています。

[http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/8000/7898/24/349\\_f\\_0726.pdf](http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/8000/7898/24/349_f_0726.pdf)

[http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/8000/7776/24/349\\_f\\_0628.pdf](http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/8000/7776/24/349_f_0628.pdf)

6月、5月、ともに他のポイントと比較して、有意に高い値とは思われません。従いまして、7月のデータが一過性のものであるか否かは、今後のデータを充分に見極めてから判断したいと考えております。



答：

全国の原子力発電所周辺の海洋環境のデータは長年にわたって、モニタリングされています。それによりますと、事故前は 1~2mBq Cs-137/L の値であり、事故後はこれよりも高い値となっています。

従いまして、ご指摘の値は事故前の値までには、戻っておりませんので、平常時の値（ご指摘のバックグラウンド値）とは言いかねます。但し、値そのものは、環境に影響を及ぼすような値ではなく、十分に低い値であることを追記致します。

答：

(1) に述べましたように、少々時期が遅れた（2013年6月）データでしたら、以下のように公開されております。

[http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/8000/7947/24/424\\_2\\_0807.pdf](http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/8000/7947/24/424_2_0807.pdf)

答：

本件に関しましては

既に、UNSCEAR 事務局、規制庁国際課と情報を共有しております（英語版にて）ので、それをご参照下さい。

なお、

につきましては、以下のように考えております；

海底土壌がいろいろな組成をとっており、セシウムの分布状況と組成との間に何らかの相関が認められるかもしれない。この場合、堆積物の性質を利用してセシウム吸収体として知見が得られる可能性もある。